

おりもの（帯下）のいろいろ

たから女性クリニック

塚越 俊夫 先生

女性特有の疾患に、おりものの異常があります。

健康な女性でもおりものは分泌され、排卵期には生卵の白身のようなさらさらした粘液が、また月経が近づくとクリーム状のおりものが増えますが、まったく心配ありません。

異常なおりものの多くは、真菌（かび）や寄生虫、細菌などが原因となって、時に特有な性状を表します。妊娠中や体力が低下したときに発症する「カンジダ膣炎」では、とうふ粕状のおりものが出て強いかゆみを伴います。カンジダはかびの一種で湿気を好みますので、通気性の良い下着を着用して「おりものシート」などは常用しないようにしましょう。

「トリコモナス」という寄生虫による膣炎では、ブクブクした泡状のおりものが出ます。「淋菌」による子宮頸管炎では黄緑色の膿状のおりものが特徴ですが、「クラミジア」による子宮頸管炎では無症状のことも多くあります。これらは性行為によって伝染する病気で、ときに雑菌が混合感染して悪臭を伴うことがあります。

小児や閉経後婦人では、女性ホルモンが分泌されないため外陰や膣粘膜の自浄作用（自力で殺菌する能力）がなく、大腸菌や球菌などの一般細菌に冒されると黄色のおりものがでることがあります。

おりもとという訴えの中には性器出血のこともあります。血液は新鮮なうちは赤色、薄まればピンク、古くなれば茶色から黄色に変化します。このような血性のおりものがあれば、子宮頸がんや子宮体がんの検査が必要になります。